

(件名) 楠隼中高一貫教育校の共学化及び全寮制廃止方針について

陳情の趣旨

6月定例県議会における塩田康一知事の楠隼中高一貫教育校の「共学化及び全寮制廃止」の方針表明を受け、我々楠隼校の在校生、保護者、卒業生は当事者として非常に困惑しています。議会での知事答弁によると、今回の制度変更は楠隼高校の定員割れへの対応ではなく、楠隼の宇宙学やトップリダー教育など特色ある教育を女子や通学を希望する生徒にも受けさせたいとの事ですが、それらを希望する生徒数の需要調査などは行っていないとのことでした。しかし、我々の考える楠隼校の最大の特色は、「大隅半島の公立高校の在り方検討委員会」での検討を受け、教育委員会で決定された「公立全寮制男子校」であり、全国からの在校生、保護者、卒業生の多くが楠隼中高一貫教育校を選択した最大の理由だと思えます。

大隅半島では高校の再編検討を経た現在、共学校、女子校、男子校(楠隼)と多様な学びを受け入れ、学びたい場所で学べる学校体系が形成されています。少子化による生徒数の減少は鹿児島県全体の問題であり、大隅半島地域でも更なる減少が予測されます。今回の知事方針により全寮制男子校という最大の特色を失い、他の学校と希望者を取り合うようなことになれば、大隅半島の学校の存続にかかる問題に発展すると、大変懸念いたします。

楠隼中高一貫教育校は開校からわずか9年目の学校です。コロナ禍の3年間十分な学校生活を送ることが出来ず、その間は肝付町の皆様との交流も行うことが出来ませんでした。しかし制約のある寮生活の中でもお互いが心のケアを行い、絆を深め、母校としての愛着も全寮制がゆえに深まったものと思っています。

今回の知事方針は令和2年7月就任に際し掲げられたマニフェストの「県立楠隼中・高校を共学にするとともに、全寮制を廃止します」からのものであると思われませんが、この時点において楠隼校は開校5年目であり、短期的視点の設置方針の根本的変更は学校教育に求められる継続性、安定性の確保の観点から問題があるとも考えます。

令和2年度に全校生徒及びその保護者に実施された「共学化全寮制廃止」についてのアンケートでは反対意見が6割を超えていましたが、その後アンケート以外特段の説明、意見交換等の場がないまま、今回の知事による方針表明がなされ、併せて「共学化・全寮制廃止」への制度変更は本年5月教育委員会定例会にて決定済みである、との説明は、当事者として到底受け入れ難いものであり、方針撤回と再考を求めるものであります。本趣旨に賛同いただいた全国各地からの署名3,155筆は過日鹿児島県知事へ提出いたしました。

以上の趣旨に基づき、下記の事項を陳情いたします。

陳情事項

1. 楠隼中高一貫教育校の「共学化・全寮制廃止」方針の再考をして頂きたい
2. 楠隼中高一貫教育校の関係者でつくる「在り方検討委員会」を設置し、楠隼校の「共学化・全寮制廃止」の在り方について丁寧な議論をして頂きたい
3. 知事方針表明後の現段階で、再度楠隼中高一貫教育校の「共学化・全寮制廃止」について在校生とその保護者、周辺関係市町の首長並びに教育長を対象にアンケートまたは意見聴取を行い、開校短期間における制度変更の必要性があるか検討して頂きたい
4. 教育委員会からの丁寧な説明を生徒並びに保護者に実施して頂きたい
5. 女子生徒と通学生の入学希望状況調査について、県内の学生等を対象に実施して頂き、開校短期間における制度変更の必要性があるか検討して頂きたい

以上